

アラブの音楽家の紹介～ウンム・クルスーム編～

S 坂根さん

K 加藤さん

K 坂根さん、今日はよろしくお願いします。

S よろしくお願いします。

K タイトルにもなっています「アラブ音楽家の紹介」ということで今日はやろうと思っています。僕こういうのあまり得意じゃない。しかも生放送ということで、ものすごい不安なんで助け船をお願いします。

S はい。わからないですけど。

K 何でそんな意地悪そうな目で。

S 意地悪な目なんですか。僕こういうときって。

K すごいほんと

S いや助けますよ、っていう目をしたつもりなんですけど...

K いやいやいや。そこ突いて来たるって感じの目をしてたんで...

S ああ、そうなんですか

K 頼みますよ。ウンム・クルスームっていう方のことを今日は話そうと思います。何で僕がちょっとしどろもどろになってるかということ、アラブ音楽の中でまず一番有名な人って誰と聞いたら、この人なんじゃないかなと思っています。コアなファンが多い。そういうファンの方々がいるにも関わらず、僕が紹介するということで、いい加減なことになってしまっただけのものすごい印象が悪い。そういうことも気にしながらしゃべっていかないとイケない。今日はしかも生なんで、カットできないんで、いらん話はあまりしないようにします。皆さん忙しいと思うのでね、コンパクトにいきましょうってま。今日はCDを持ってきました。全部同じアルバムに見えますよね？

S そうですね。文字まで見えないですけどね。

K 全部同じアルバムに見えるんですけども、実はそれぞれが別々のアルバムで、どこが違うのかというと、文字が書いてあるんです。これが違うんです。この文字は何だと思います？

S ウンム・クルスーム

K ここにすごい大きな装飾した文字でウンム・クルスームとある

S すごいですね。それを読めるんですね。

K 絵みたいに見えるけど、ウムクルスームって書いてあります。二段目に、大きな字で書いてあるのが、曲のタイトルなんです。下に作詞・作曲した人の名前が載ってて、そういうジャケットで、それぞれが同じに見えるけど、字だけが違うんです。ここに今日持ってきたのは、その中でも6枚。なんでこういう話をしなきゃいけなくなったかという、僕が6年ぐらい前にエジプトから買ってきたCDなんです。坂根さんが、僕がエジプトに行くんやったらCD買ってきて、日本でそれを売ったら渡航費になるんじゃないか、といってくれたじゃないですか。

S いいました。

K それでほとんどそのCD屋のCDを買いつくすぐらい買ったんですよ

S ほんまですか

K 坂根さんが札束を僕にわたしてくれて

S あれ、怖かったですね。

K それで買ってきたんですけど、全然売れてないんですよ

S 加藤さん売れるって言ってたのにね。これだけは絶対にすぐ売れますよ、って言ってたやつすら売れてない。

K 全然売れてなくて、もう6年ぐらい経って。さすがに腐るものではないけど、ずっとあるのもなと思って。だから、いかに僕がすごくいいものを買ってきたかを知ってもらいたいと思って。

S めずらしく

K 他のミュージシャンのCDもあるんですよ。違う人のアルバムとかあるんですけど、それもおいおい紹介していこうと思いますけど。今日はウム・クルスームという方の紹介しようと思ってます。

S 紹介やからバッチリ説明しいへんと次ないよ。

K 二度と見てもらえないですよ。ウム・クルスームっていう人を、このCDが売れるように紹介しないといけない。

S そうなんですよ。嘘やけど、札束いっぱい出したんで

K それが難しいですね。ただ紹介するだけじゃなくて、売れるように紹介しないといけないっていうのが。

S ぶっちゃけのところそれはあきらめてるので、しっかり興味のある人が知識を得れるように解説してもらったらいと思います。

K ほんとに素晴らしいのでその魅力をちょっとでも紹介できたらと思います。ちなみにこのCDはいろいろとタイトルありますけど、アマルハヤーティーって「私の人生の希望」という意味なんで

すけども、実際かけて「こことかいいですよ」とかできたらいいですけど、それしたら著作権上ダメでしょう。

S ああ、そうですね。

K だから音を聞いてもらえないのに魅力を伝えるのは難しいですが。とりあえず、いつ頃の時代の人なのか、という話をしようと思います。生まれた年は、はっきり分かってないんですよ。

S 昔過ぎて？

K 何なんでしょうね。その理由までは分からなかったんですけど、1904年。

S 最近じゃないですか。

K 最近ですけど。CDあるねんから、それより前ってあまりないでしょう。

S でもそんなクラシックのベートーベンとかありますやん、CDとか。

K それは本人が演奏しているわけじゃない。

S ほんまやね

K 亡くなった日ははっきり分かってます。1975年の2月3日。生まれた日がはっきり分かってないので、何歳で亡くなったのか推測するしかないんです。だいたい71歳ぐらいかなって。そういう時代を生きられた方なんですけども、この人がいかに人気があったのかを象徴する出来事。お葬式の話になっちゃうんですけど、エジプト全土から200万人もお葬式に訪れたそうなんです。

S 同時に？

K 知らん。同時につて、結構、不可能ですよ。

S 同時はね、200万人ね、どうなんですかね。

K 不可能ですよ。収納できないですよ。

S 昨日たまたまアラブのこと見てて、「アラブの春」のNHKで番組やってたけど

K タイムリーですね

S あれ200万人いないでしょう。分かれへんけど、おったかも知れんけど

K タハリール広場って、まさに今アラブの春の舞台になった広場

S あそこなんですか。それやったら分かれへんな。

K そこのモスクで行われた。あとはアラブ諸国からも200万人きた。

S 200万人好きやね。それだけすごいってことですよね。

K 400万人です、合計。

S ひょっとしたら、日本の昭和天皇がお亡くなりになった時の大喪の礼クラスの数ちゃいますかね

K すごい人数ですね。ほんとそういうレベルですね。

S それになってなくてもすごいということ表現したかったんでしょうね。

K ウンム・クルスームなんですけども、軽く生い立ちの話をする、すごい田舎の出身なんです。お父さんがイマームって言って、イスラム教の指導者、お寺でいったらお坊さんみたいな人で、イスラム教の聖典のコーランを朗唱する人。コーランは朗唱するときにすごい節回しがついてる。めっちゃいいんですけども、それもかけられないで、見てる方々に、皆さん、コーラン聞きたいと思ったらうまいこと探してもらえないですかね。

S 最近、ユーチューブとかでは流れてない？

K うん、うん、そう。

僕も聞くのすごい好きなんですけども、アラブ音楽とか聞いてると、やっぱりそういうのが繋がってるなと思う。小さい時からお父さんのそういうのを聞いて、自分も歌ったりしてたらしいんですけど。親に「こいつの声はすごい。ただもんじゃない」と認められて、お父さんが演芸団みたいなのをやっており、そこに入団した。イスラム教のこと僕はそんなに詳しくはないんですけど、男の人と女の人と一緒にいる。例えば、日本だったら銭湯分かれてるけど、いろんな意味で分けられてる。女の子が歌うというのはあまりよく思われなかったそうで、男の子の格好してやる。普通やったら、めんどくさいからこの子男だったと思うかもしれないけど。あえてそこはそれでやった方がお客さん来るから。儲かるから。

それですごく評判になって大都会、カイロに出ていく。そのころだいたい19歳と本には書いてあったけど、それぐらい時間はかかってるんです。そこから1923年にカイロに移った。1924年、翌年からレコーディングをしている。だからすごい評判だったんでカイロにこいよ、と言われてた。そのころレコーディングできるというのは相当すごい人だと思います。今みたいに誰もができるわけじゃない。レコードがむちゃくちゃ売れたんです。レコードプレイヤーがちょうど普及し始めたころです。だからやっぱりいいのはより売れるんですね。興奮して買うじゃないですか。

S だから泳げたいやきくんみたいなもんやね。

K それはいろんな意味で微妙ですね。僕はわかるけど、全然時代も何もかも違うから。ちょうどそういうものが出来た、まさに75年に亡くなってるでしょう、いろんなメディアの発達とともに売れてきた人、というのがまず大きな特徴なんです。10年後になりますが、ラジオ局が開局します。カイロに出てすぐにレコーディングしてるでしょう。そこからいろんな人に出会ってどんどん実力をつけていくんです。先生にもいっぱいついて。お父さんがいい先生につけて。

S この子はこれで生きていくみたいな

K もっと磨いてみたい。どんどんすごい状態になっていったら、次はラジオが開局。そのラジオ局の開局のオープニングも務める。すごい、華々しい。

S メディアと音楽が結びついた時代に乗っかって行って国民音楽になっていった。

K まさにその最先端の中。メディアのこともあるしエジプトの社会的なこともいろいろあると思うんで、ちょっと僕その辺詳しくないんで。メディアとの話しますけど、1937年にウンム・クルスームといえば有名なコンサートがある。その年の10月から翌年の6月まで毎月・第1木曜日に定期コンサートやってます。第1木曜日ですよ。変じゃないですか。

S なんで？週末じゃないっていう意味？

K 週末じゃないでしょう。だいたいやっぱり週末にしたいじゃないですか。どっちかいったら金曜日の前の日にやられたら嫌じゃないですか。

S 一番仕事集中してやってるときやね。

K そうでしょ。でも実はね、金曜日はイスラム教徒の方にとっては休日なんです。だから週末。

S 土日は何してるの

K 土曜日もし休みかもしれんけど、日曜日は普通に仕事してるんじゃないかな。

S 日曜日は平日みたいな感じ

K そのコンサートが夜の10時ぐらいから始まる。遅いでしょう。

S そうですね。普通こっちやったら7時とか6時とか、仕事終わった後

K そうですね。10時から始まって明け方近くまでやってるんですよ。だからよけい、日本でいう木曜日の夜にやられたら大変なんですよ。

S 日本やったらね

K 金曜日仕事にならないです。

S むこうは木曜日が土曜日みたいな感じやから

K それを1937年から、年に10月から6月までやから、だいたい8か月か9か月を毎年やっていくんですよ。休まず。

S 休まず毎週

K 毎週と違う。聞いてないでしょう、人の話。

S 第1木曜やね。毎月やね。

K ちなみに僕が昔参加してたロックバンドは、毎月第1月曜日にオールナイトでやってた。

S 最悪やね。働く気なくなるね。

K そこにゲストで来てくれたりした僕の大先輩が、MCで「月曜の夜からオールナイトってしびれるね！」って言ってました。

S そのときのギタリスト時代ですよ。

K ギター弾いてた時ですね。

S クジラの音とか作ってた時。そんなんもオールナイトでやってたんですか。

K それはロックバンドです。

S ロックバンド。普通のね。

K 普通ではないけど。

S でも、それも興味あるけど。

K 1937年から始めて1972年の12月までずっとそれ続けたって。すごくないですか。

S オールナイトでね。

K 1972年って、もう60代後半なんですよ。夜の10時から朝方まで歌えます？

S 普通に考えたら無理やけど、加藤さん見てるとできますね。音楽やってる人って、なんかへんな体力ありますよね。夜中じゅうやっても全然疲れずに若々しくいられる。今日なんかここで仕事してるから疲れてますけど、普段若々しいですもんね。

K そうですか。。まあまあ。

そういうコンサートがあって、みんなその定期コンサートを楽しみにしてるわけです。それもすごい大きい。その定期講演をやる1年前の36年からは映画にも出る。映画出演。ラジオに出演してすぐ次は映画。映画も当時はどんどんと普及していった。でも、ただ歌うたいなので、あまり俳優的なことはしてない。やりたくなかったのか分からないですけど、10年間で映画は6本だけしか出てないんですけども。映画っていうのはテレビの前の時代じゃないですか。見たいけど、みんな見れないんです。テレビないから。でも映画は見れる。10年間ぐらいやって、そこから次はテレビに映った。そういう感じなんですよ。

S だからウンムクルスームの顔知らずラジオだけで想像してた人もおるってこと？

K そうですね

S じゃあ見た瞬間ちょっとこうね

K 写真とか

S 写真とかで見てるのか

K それからテレビに出て。今は亡くなって75年なんで、もう46年ぐらい経つのかな。未だに僕とかエジプト行くじゃないですか。そしたら普通に街中で流れてる。僕ウード弾くじゃないですか。そしたら、あれ弾いてくれみたいな。ウナム・クルスームの曲をリクエストされたりするぐらい、未だにすごい人気です。

S 日本の美空ひばりですよ

K それちょっと分からないけど

S 美空ひばりも子供のころからメディアと一緒にあって国民栄誉賞も取ってみたいな感じでしょう。

K 違いがあるとすれば、美空ひばりの曲あまり聞かないですね。

S 加藤さんがでしょう

K いや、普通に

S 街中でってこと？

K 聞かれてないですよ

S 今の世代ね。僕のお父さん世代とかみんな。

K だからそうじゃなくて、未だに街中で聞くんですよ。ウナムクルスームの曲は。

S なるほど

K それがすごい違うかなって。だって知らないでしょう。いま20代の人とかが美空ひばりの曲とかね。

S 「川の流れるように」とか歌ってるんじゃないの。教科書で。

K 教科書でね。それは分からないけど、古い文化がエジプト行くとずっと残ってるなと感じる。古い曲いっぱい流れてるし、けっこうみんな知ってるんですよ。今はさらに時代がCDから進んでユーチューブになり、動いてる姿が見れます。ウナム・クルスームの。

昔の人は実際にコンサートに行けないけど、こんな感じっていうのは見て楽しんだんじゃないかなと、今僕らも体験できる。やっぱり見ると全然違うんですよ。聞くだけと。だから是非ユーチューブで見れるんで、見て下さい。

S ユーチューブと言ったらCD売れへんようになるで

K ユーチューブで見れるんでCDのメリットほんとにないんですよ。

S 買ってきたけど売れへんかったのはそういう理由もあるし

K そうですね

S いろいろ聞けるメディアが増えたという

K ただ一つだけメリットがあるとすれば、ここにタイトル書いてるじゃないですか。これ1曲しか入ってないんです。1枚に。

S 1枚に1曲

K アルバム1枚に1曲しか入ってない。

S 損した気分

K だから1曲(1枚)が1時間ぐらいあるんですよ。

S 長いですね。1時間もあるんですか。

K 1時間あるんですよ。だからユーチューブで見ようと思ったら1時間見ないといけない。それはいいんですけど。CDには歌詞も付いてる。

S 普通読まれへんもんね。アラビア文字やから。

K 勉強すれば読めるようになります。

S 勉強すりゃって(笑)

K アラブ音楽の音楽自体のことをもうちょっと詳しく説明できる機会があったらしたいんですけども、1時間あるけどただずっと1時間やってるわけではないんですよ。

S そりゃそうやね

K 意味分かりますか？

S 意味分からん

K 分からないのになんで「そうなんです」って言ってるん。

S そうですか

K (音楽に)形式があって。アラブ音楽って、ものすごい古くから伝わっている詩も、イスラム教以前からある詩の形式も、この時代でもやってるんですよ。それが音楽の形式にも繋がるんですけども。大きく分けていったら五つぐらいのパートに分かれるんです。ここに赤い文字でタイトルあって、ここに作った人の名前書いてあって、何の音階を使っているかも書いてある。赤い字で書いてあるのは。最初の部分、その次の部分、五つに分かれてるんですよ。それぞれの出だしの歌詞も書いてある。ここから次のパートに行くよ、と。だいたい間奏は挟んであるので分かるんです。これがCDやったらそこまで飛ばせるんですよ。

S なるほど、ユーチューブはそれ分かれへんですね。

K ユーチューブは分からないし、1時間の曲がつかみどころがなかったら聞く気しないでしょう。でもこれは、なるほどまずこの部分があって次この部分に行くんやというのがピッと押したら出てくる。例えば、今1時間曲聞いてって言われても聞けないでしょ。坂根さんも忙しくて。

S そうですかね

K じゃあ、今日ウンム・クルスームの曲を聞こうと思ってCDかけるじゃないですか。だいたい5分ぐらいしたらもう携帯とか触り始めるでしょう。そしたら一生、最初の5分しか聞かないですよ。

S 聞けへんし、意味分かっては聞かれへんですよ。ここはこういうことや、とか。

K でも、こうやって分けてあったら、今日はこの部分から聞こうとか、そういうことができる。それぞれがすごいいいんで、それぞれの部分聞いてもすごいいい感じなんで。

S 五つに分けてあるけど、どんな分け方してあるんですか？なにか物語性があるんですか歌に。

K そうですね

S 起承転結的な

K あります。それを話したら長くなっちゃうんで、今日はこの辺にしようかな。あまり長く話しても飽きるでしょう。だから、またアラブ音楽の形式のことなども話していこうと思うんですけども。まさにほんとに昔からある形式に則って作られてあります。

S ちなみに、さっき夜からコンサート始まって朝までするっていったじゃないですか。何曲ぐらいするんですか？

K あ、そうそう。いいこと聞きましたね。これ1時間って言ったでしょう。ウンム・クルスームのアルバムって全部ライブ盤なんです。なぜかと言うと、お客さんとのやり取りが演奏の中の一つの大きな要素なんです。

S なるほど。お客さんと作り上げてる感じなんです。

K ライブ見に行ってもずっと聞いてて(曲が終わったら)拍手して、という感じではなく「来たあ！！」っていうお客さんの方の熱狂がすごく伝わるんですよ。曲の途中でも「うわー」って盛り上がったりと、いったん演奏をストップして、またもう一回前から始める、そういうことをやる。スルメを噛むような感じで音楽を味わっていく。だから1曲が2時間ぐらいになったりとかするんですよ。

S やり取り加えると普通の曲の長さよりさらに長くなる

K そうそう。ほんとで、アルバムにするときそんなに入れられないし、家でそのテンションじゃない。だからうまいこと編集してあるんですよ、1時間ぐらいに。ほんとにはもっと長い。そういう長い曲を一晩に3曲やってたらしい。

S (笑)なるほど。違う曲を3曲やるんですか

K 1972年まで

S 普通のライブって、僕あまり行けへんけど、2時間ぐらいでしょう。2、3時間ぐらいでしょ

K 2時間もやれへんと思いますよ。

S 今のライブの感じやったら1曲で終わってしまうみたいな感じですよ。

K だから冗談みたいな話で、僕あまりこういう話したくないんですけども、コンサート始めるときに「では、最後の曲聞いてください」みたいな。そういうことになっちゃう。

S なるほど。最初で最後。アンコールしたらえらいこっちゃみたいな。

K やめときゃよかった、って。(笑)

まあ、そんな感じでいっぱいあるんですよ。アルバムがね。またちょっと興味持った方がどこにアクセスしたらいいか。

S ユーチューブの履歴が残ると思うので詳細欄にアクセスサイトは載せて、皆さん、ご購入頂けたらと思います。わりと安くで出してるんちゃうかな、と。

K ちょっとケースが割れてるんですけどもね

S そうなんですよ。新品なんだけども

K それをちょっとご了承頂きたい。

S エジプトの楽器もそうやけど、CDも新品やけど、普通にケース割れてるんですよ。楽器もちょっとおかしかったり。ダルブツカを買った人が、でこぼこなってるんやけど、ネジがちゃんと回らないのとかがあるんやけど、とかいわれて、不良かな？と思ったら、それが味になってるらしいっていう。楽器それぞれが個性があるみたいやね。そんなんがあってびっくりしたけど。

K Sono Cairo(ソノカイロ)というレコード会社から出てるアルバムで、これは超一流のレコード会社なんです。

S エジプトの？

K ソノカイロの直営店で買ってきてるから。店員さんがめっちゃめっちゃ押してくるものを僕買ったんで

S それを大量買いする金持ち日本人が来たみたいな感じ？

K だからちゃんとしたやつなんです。割れてるけど。路上で買ったじゃなくて直営店から買ってるんで。その辺も信じて頂けたらというふうに思います。

S ちなみにちょっと僕疑問があったんやけど、僕は加藤さんとかのライブ行くんですけど、1時間もあるウンム・クルスームの曲とかもやるの？

K やりますよ。その中の一部をね。

S やるときってどんな感じの演奏するの。どういうチョイスをして演奏してるの？

K 有名な個所とかあるんです。坂根さんが好きなベリーダンスとか

S 何年かに1回ぐらいしか行けへんけどね。

K もっと行って下さい。ベリーダンスでもよくウナム・クルスームの曲は使われてるんですよ。そういうところがきっかけになって知る人もけっこう多くて、そのいいシーンで使われた曲や部分が踊りにも使われてたりするんで、そういうところは結構皆知ってるんですよ。そういう部分を演奏したり、そういうことが多いかな。

S サビとかフレーズでよく踊られてるフレーズとか、そんなのをチョイスして、加藤さんらは演奏してる。

K 歌の部分は楽器だけで演奏する人が多いですけど、ちょっと最近は歌もちょっと挑戦したりしてますけど。

S うた歌えるんですか？

K ちょっとつつ

S うた歌ってくださいよ

K はい、また。

あんまりね、長々としゃべっていても皆さん忙しいと思うので、今日はこの辺にしようと思いますけど。またこんな感じでほかのアーティストのことや、アラブ音楽の基本的なこととかもお話しできたらと思ってますんで、また坂根さん付き合ってください。ということで。

S 今日はこの辺で終わるんですかね。

K はい。どうもありがとうございました。

S ありがとうございました。5人ぐらい同時に見て頂いてみたいなんで

Kすごい。誰が見てくれていたんやろうね。ちょっと教えてほしいな。

S ちょっと恥ずかしながら、もうちょっといい放送にしていけたらなと思います。では終わります。

S・K ありがとうございました。